

## 巻頭の辞

本巻は、神田外語大学グローバル・コミュニケーション研究所紀要『グローバル・コミュニケーション研究』の特別号「国際社会が見えてくる——グローバル化とグローカル化する世界」である。本学の社会科学系の教員の専門領域に即し、多面的な角度から「国際社会が見えてくる」ように設定されている。したがって、本特別号は研究成果が本学の「地域・国際研究コース」基幹科目（オムニバス講座形式）である「国際社会が見えてくる」の参考テキスト教材として活用され、教育に還元されることを目的として編まれている。

21世紀に入り、「国際社会」に関する研究は、伝統的な「国際＝国家と国家の間（inter-national）」の次元から国境を越えた「超国家的」（trans-national）かつ「グローバル」（global）な視点の研究へと推移し、さらにはグローバル化に対してローカル（local）社会が直接反応する「グローカル」（glocal）な視点への研究へと発展してきた。この間、国際社会に関わる主なテーマは冷戦期のアメリカや旧ソ連、ヨーロッパを中心とした大国間のポリティクスから、いわゆる非欧米諸国であるアジアやイベロアメリカなど多様な地域（regional）・諸国の多層的で複雑な諸問題へとシフトし、そのアクターの様相も大きく変容している。

このような潮流を踏まえ、本研究は「国際社会」を以下のように3つの次元、すなわちグローバル（第Ⅰ部）、リージョナル・ナショナル（第Ⅱ部）、ローカル（第Ⅲ部）に区分し、読者がこの3つのゲートウェイから国際社会を見て、グローカルに生きるための視座を獲得できるように構成されている。

以下、各部門の構成とその内容について簡単に解説する。第Ⅰ部「グローバル・インターナショナルから国際社会を見る」では、従来の枠組だけでは解決できないグローバルな世界のイシューを対象とする。第Ⅱ部

「リージョナル・ナショナルから国際社会を見る」では、EU、ラテンアメリカやイベリア半島など地域や国家内・間で起こる諸問題を取り上げる。第Ⅲ部「ナショナル・ローカルから国際社会を見る」では、都市、企業、コミュニティ、家族など本来国民国家の枠内にいたアクターのグローバルな展開に焦点を当てる。

地域・国際研究分野「国際社会が見えてくる」編集委員会  
代表 阪田恭代 岩井美佐紀